

佐賀県には、県内のさまざまな地域で生まれ、長年にわたり人々の文化や暮らしに根ざした産業から生まれた品々があります。伝統的な技術や技法が今も受け継がれています。



鹿島錦を織り上げる様子 (佐賀県経営支援課 提供)

生まれた背景

江戸時代末期、鹿島鍋島家の藩主夫人、柏岡の方が網代天井からヒントを得て、これを日用品に応用できないかと側近に相談したことがきっかけとなりました。

金・銀の箔や漆などを施した和紙を経糸、絹の糸を緯糸として手作業で織り上げる錦。伝統の網代文様など多くの文様が織られ、美術品としても発展しました。



1910 (明治43)年、ロンドンで開催された日英大博覧会では、当時「鹿島錦」と呼ばれていたものを大隈重信の計らいで「佐賀錦」と名付けて出品。「佐賀錦」が一般的に定着するきっかけになりました。

(佐賀県経営支援課 提供)



(佐賀県経営支援課 提供)



(佐賀県経営支援課 提供)

生まれた背景

1852 (嘉永5)年に佐賀藩は西洋の最先端の科学を研究・実験する精煉方を設立。その後身の組織で働く副島源一郎が創業したガラス製造の専門工場が今も生産を続けています。



(佐賀県経営支援課 提供)

ジャッパン吹きの様子

伝統的な技法「ジャッパン吹き」により作られるガラス製品。型を用いずにガラス管に息を吹き込みながら形を作る技術は100年以上も受け継がれています。



(佐賀県経営支援課 提供)

鍋島緞通を織り上げる様子

上質な木綿を使った伝統的な「蟹牡丹」柄が特徴の敷物。「トン、トン」と糸を叩き締めながら一目ずつを手で織り上げます。熟練の職人も一日に織ることのできる幅は数cmです。

生まれた背景

江戸時代初期、長崎で中国人から緞通の技術を教わった古賀清右衛門が「扇町毛氈」として織ったのが始まり。佐賀藩3代藩主鍋島綱茂が生産を奨励し、藩の御用品となりました。



諸富家具 (佐賀市)

(佐賀県経営支援課 提供)

家具を組み立てる様子



(佐賀県経営支援課 提供)

生まれた背景

佐賀市諸富町では鉄道や橋の開通などにより1935 (昭和10)年頃から、家具産地としての歴史を誇る福岡県大川市との往来が盛んになり、新しい木工技術が伝わりました。

木工技術とオリジナリティーをいかしたデザイン性のある家具が特徴で、木の時計やおもちゃなど、個性あふれる木工製品を製造するメーカーも多数あります。



くすり (鳥栖市)

(鳥栖市教育委員会 提供)

行商で薬を販売した「くすり屋さん」



(中富記念くすり博物館 蔵)

生まれた背景

田代 (現在の鳥栖市東側半分と基山町の地域) では、長崎街道の交通の要衝であったことなどから薬作りや商売の知識が得られ、貼り薬を中心とした薬作りが盛んになりました。

佐賀県において製薬業は大きな産業の一つです。中でも日本四大売薬の一つと言われる「田代売薬」は江戸時代中期に起こり、県東部では今もその流れをくむ製薬会社が残っています。

■その他の産業

■浮立面 (鹿島市)

桶や桐、檜などで作られる鬼の面。伝統芸能の「面浮立」を踊る際に着ける面として、使われてきました。

■名尾手漉和紙 (佐賀市)

自家栽培した梶 (楮の一種) を原料に作られる和紙。提灯の紙のほか、さまざまな用途で使われます。

■弓野人形 (武雄市)

博多人形師の原田亀次郎が1882年に武雄市弓野地区で製作した土人形が始まりと言われています。

■西川登竹細工 (武雄市)

明治初期に農業の副業から始まりました。細い竹ひごを編み込む繊細な技術が特徴です。

見どころスポット

中富記念くすり博物館

住所：佐賀県鳥栖市神辺町 288-1
電話：0942-84-3334
開館時間：10時～17時 (入館は16時30分まで)
休館：毎週月曜日 (祝日の場合、翌日)、年末年始
料金：大人 300円、高校・大学生 200円、小・中学生 100円



調べてみよう!

田代売薬のくすりの販売方法の「先着後利」って、どういう意味だろう?

